

## その他の取り組み

東武グループでは、すべての事業分野において環境活動を推進しながら、持続可能な社会の構築に貢献するよう努めています。

### 国立公園オフィシャルパートナーシップの締結

東武鉄道と東武トップツアーズは、2017年3月、環境省と国立公園オフィシャルパートナーシップを締結しました。

これは、環境省と企業または団体が相互に協力し、日本が世界に誇る国立公園の美しい景観と、国立公園に滞在する魅力を世界に向けて発信し、国内外からの国立公園利用者の拡大を図ることで、人々の自然環境の保全への理解を深めるとともに、国立公園の所在する地域の活性化につなげるためのパートナーシップです。



国立公園  
オフィシャルパートナーシップ  
締結書

### 環境配慮エコツアーの開催

沿線地域の環境保全・地域振興活動の一環として、2017年9月24日、30日に、奥日光 戦場ヶ原でハイキングを楽しみながら自然環境を学ぶ「環境配慮エコツアー」を実施しました。



戦場ヶ原でのハイキング

このツアーは大自然の中で、専門ガイドによる環境教育を通して、奥日光の自然（小田代原の神秘・歴史や生態系の現状）等を学ん

でいただくものです。2016年も足尾地域での植樹体験を組み入れたエコツアーを開催しましたが、今回は、東武グループの環境に優しい乗り物への乗車体験と奥日光エリアでの自然体験により環境保全の大切さを考えていただくきっかけを提供する企画としました。さらに、手つかずの自然が作り出す美しい景色など「日光の持つワールドクラスのポテンシャル」を感じていただく観光プログラムの設定により誘客を図るなど、地域の活性化に努めました。

なお、ツアーの移動手段である往復の電車には、バイオマス発電によるグリーン電力を利用し、東武日光駅～奥日光(赤沼)間往復のバスにおいては、走行に伴って発生する二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を、「東武鉄道社有林篠井山林間伐促進プロジェクト」で創出されたオフセット・クレジットを利用して、CO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロとしました。



ツアー参加者との記念撮影

### 環境配慮型遊覧船の導入

東武興業では、栃木県日光市で展開している中禅寺湖遊覧船事業において、2017年8月10日に新型遊覧船「男体」の運航を開始しました。

現在運航中の「けごん」「アストリア」の2艘に加え、新たに導入したこの「男体」は、船上部に設置されたソーラーパネルで太陽光発電を行い、船内照明やフリー電源に使用しています。これらにより、排出するNox(窒素酸化物)量は、既存船の約50%に低減されるなど環境に配慮した仕様となっています。



新型遊覧船「男体」

## その他の取り組み

### ● 森林保全とJ-VER 制度の活用

森林は国土の保全、水資源の涵養、災害の防止、生物多様性の保全・形成等の様々な機能を持ち、中でもCO<sub>2</sub>を吸収・貯蔵する機能は、地球温暖化防止に大きな役割を担っています。

東武鉄道では栃木県、群馬県等に所有する社有林を適切に維持管理しており、このうち栃木県宇都宮市の社有林においては、環境省が地球温暖化対策のために創設したJ-VER制度<sup>\*</sup>を活用し、地元森林組合の協力を得て実施した間伐によるCO<sub>2</sub>吸収量について、オフセット・クレジット(J-VER)の認証を取得しています。

取得したJ-VERは東武タワースカイツリーや東武トップツアーズ等の企業活動やイベントで発生するCO<sub>2</sub>排出量とのオフセット(埋め合わせ)に利用されています。

<sup>\*</sup>J-VER制度は、経済産業省が所管する国内クレジット制度と統合し、2013年度より「J-クレジット」制度として継続されています。

### ● 沿線自治体との連携による森林保全 —とうぶの森 とちぎ中央—

東武鉄道では、沿線自治体との連携により、環境保全のための様々な取り組みを推進していますが、2013年度から、栃木県壬生町の社有林「とうぶの森 とちぎ中央」において、栃木県企業局と協働で森林保全活動に着手しています。

2016年度の活動には東武鉄道、栃木県企業局、壬生町の職員および家族のほか、地元小学生など約120名が参加し、ドングリ畑の手入れ(草刈り)や果樹系苗の植樹、また環境教育の一環として、もやかきや自然観察会をあわせて実施しました。

2017年度は11月下旬に予定しています。



ドングリの播種風景



森林保全活動に参加された皆様

### ● グリーン電力の利用

2017年6月の東武鉄道株主総会の会場運営電力をバイオマス発電によるグリーン電力で賄ったほか、同年7月に運転を開始した東京メトロ日比谷線直通車両70000系(出発式当日)の運行電力やエコツアーにおける特急列車の運行電力をグリーン電力で賄いました。

また、印刷物発行に伴う消費電力についても、グリーン電力の利用を推進しています。

【マンスリーとーぶ、会社要覧、安全報告書・同ダイジェスト版、アドメニュー、高架化事業のお知らせほか】



新型車両70000系出発式(セレモニー)「マンスリーとーぶ」

### ● 印刷物の環境配慮

東武鉄道では印刷物の環境配慮にも取り組み、発行部数が多い冊子や定期刊行物を中心に継続的に改善を図っています。発注する際の環境配慮【紙(森林資源の保全)、インキ(大気汚染防止)、リサイクル適性など】の度合を数値化した「社内手引きと解説書」を各部に備えつけ、外部講師による研修等を行い指導を受けながら、協力会社への啓発や印刷会社の選定に役立てています。

こうした取り組みは印刷業界にも認められており、(一社)日本印刷産業連合会主催のGP(グリーンプリンティング)環境大賞において、2015年度以降2年連続で「準大賞」、2017年度は「大賞」を受賞しました。



印刷物の環境配慮 手引き



2015、2016 GP環境準大賞 受賞



子ども版社会環境報告書'17



適切に管理された森林からの材料を含むFSC<sup>®</sup>認証紙を用いて森林資源の保全に、水なし印刷と石油系溶剤の一部を植物油に置き換えたインキを用いて、光化学スモッグの原因となるVOC(揮発性有機化合物)を削減し、「大気保全」に配慮しています。この冊子の刷版から印刷・製本に使用した電力(1,335.61kwh)は、バイオマス発電によるグリーン電力により賄いました。また、印刷用の紙に再生できるように配慮しています。

各種環境配慮事項を印刷物に表示

## その他の取り組み

### 沿線自治体主催の環境イベントへの出展

東武鉄道では、2017年5月に足立区が主催する「地球環境フェア2017」に、同7月には川越市が主催する「エコプロダクツ川越2017」に参加し、「人と環境にやさしい鉄道」をテーマとしたブースを出展しました。それぞれ回生ブレーキのしくみや環境活動についての説明などを行い、鉄道が環境にやさしい乗り物であり、環境負荷低減に寄与していることや地域社会とのコミュニケーションとその活性化に努めていることなどを紹介しました。



▲▲  
出展中の  
東武鉄道ブース

なお、同8月には「エコプロダクツ川越大賞」の表彰が行われ、東武鉄道は、来場者投票によって出展企業・団体中最も優秀であったと認められ、最優秀賞を受賞しました。



エコプロダクツ川越大賞「最優秀賞」の賞状

### 太陽光発電事業の推進

東武エネルギーマネジメントでは、環境の負荷低減への対策を進め、持続可能な活力ある低炭素・循環型社会づくりの一助にすべく、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」による太陽光発電事業に参入しています。2013年7月からの東武佐野線葛生駅南側土地（栃木県佐野市）における民鉄グループ初のメガソーラー「葛生太陽光発電所」を皮切りに、東武鉄道社有地などを有効活用して事業を推進しています。現在は8か所の発電所が稼働しており、合計設備容量（太陽光パネル容量）は8,970kW、年間発電量は約969万kWh（一般家庭約2,692世帯分）、年間CO<sub>2</sub>削減量は約4,896トン（約44万5千本のブナの木を植林したのと同程度の効果）となっています。



東武高柳太陽光発電所



東武岩舟太陽光発電所

### 熱供給事業において 「準トップレベル事業所」ならびに 「低炭素熱」の供給事業者に認定

2017年3月に西池袋熱供給のセンタープラントが東京都環境確保条例における「準トップレベル事業所」に認定されました。さらに同社は、東武エネルギーマネジメント・錦糸町熱供給とともに、同月、CO<sub>2</sub>排出係数の小さい事業者として同条例における「低炭素熱」の供給事業者に認定されました。

西池袋熱供給では各プラント間の連携による冷熱の相互供給、温熱機器の集約化、熱源機器の高効率化および統合監視システムによる運転管理により、錦糸町熱供給では熱源機器の更新工事を実施したことで、

省エネルギー効果が  
高いと評価を受け  
たものです。



▲監視室

西池袋熱供給の  
センタープラント

▼ターボ冷凍機

